

報道関係者 各位

2026 年 4 月 30 日

京都発の国際写真祭が英国へ 川田喜久治と岩根愛による初の同時展示 『Kyotographie: Kawada Kikuji × Iwane Ai』展

2026 年 6 月 3 日（水）－ 2026 年 10 月 18 日（日）

ジャパン・ハウス ロンドン 地下ギャラリー／1 階ショーウィンドウ・展示ブース



Shadow in the Water, from the series Los Caprichos, Kawada Kikuji

ジャパン・ハウス ロンドンは、2026 年 6 月 3 日（水）から 10 月 18 日（日）まで、当館初となる写真展『Kyotographie: Kawada Kikuji × Iwane Ai』を開催します。本展は、毎春京都で開催されるアジア最大級の写真祭「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」の主催チームが企画・監修を手掛ける英国初の展覧会です。川田喜久治（2024 年参加）と岩根愛（2022 年参加）は、それぞれ同写真祭において大きな反響を呼びましたが、両者の作品が同時に展示されるのは本展が初めてとなります。

本展では、戦後の日本写真界における重要人物の一人として国際的に高く評価される川田喜久治（1933年生まれ）と、独自の世界観で国内外から注目を集める岩根愛（1975年生まれ）の作品を紹介します。川田が捉えた、戦後の記憶。岩根が描き出す、変容し続ける日常の中に息づく脈々と受け継がれる生の営み。世代も表現手法も異なる二人の写真家は、レンズを通して何を見つめ、何を表現しようとしたのか。記憶と時間の断片、あるいは人々の想いや物語といった見えない存在を浮かび上がらせる二人の作品は、今を生きる私たちに深い問いを投げかけるとともに、より豊かな未来を展望するための新たな視座を提示してくれるでしょう。

川田喜久治の重層的かつ精力的な作品は、第二次世界大戦後の復興期から現在に至るまで、変容し続ける日本の姿を捉え続けてきたものとして広く知られています。1960年代には、当時新進気鋭の写真家たちと共に写真エージェンシー「VIVO」を設立。革新的な写真表現を確立して、日本の写真史に新たな地平を切り拓き、1974年にはニューヨーク近代美術館（MoMA）での「New Japanese Photography」展に参加、2011年には日本写真協会作家賞の受賞など、国内外で極めて高い評価を得てきました。

本展では、川田の代表作であり、日本写真史上最も重要な写真集の一冊と目される『地図』（1965年）より主要な作品を展示します。川田の妥協なきまなざしを通して終戦という歴史の記憶を抽象的に捉えた同作は、今なお世界中の表現者に影響を与え続けています。あわせて、何気ない日常の風景や都市の断片的な情景から社会の深層を捉えた『ロス・カプリチオス』（1968–1981年）の主要作品群も紹介します。日本写真の従来表現を大きく転換させた、川田喜久治の作品を世界中の愛好家にご覧いただける貴重な機会となります。本展における川田作品のキュレーションは、フォトギャラリーPGI（東京・西麻布）のディレクター高橋^{きやか}朗が担当します。

高校時代を単身米国で過ごした経験を持つ岩根愛は、国境や文化を越えて交差する記憶をテーマに、意欲的な創作活動を展開してきました。帰国後、アシスタントを経て独立した岩根は、雑誌や音楽シーンの撮影を皮切りに写真家としてのキャリアをスタートさせました。福島にルーツを持つハワイの日系移民コミュニティの暮らしを記録した初の作品集『KIPUKA』（2018年）を発表。同作で、日本の新人写真家の登竜門とされる最も権威ある賞を受賞し、鮮烈なデビューを果たしました。その作品は現在、東京都写真美術館をはじめ世界各地の主要なギャラリーや美術館に収蔵・展示されています。

本展では、『KIPUKA』に加え、コロナ禍の東北で撮影された『A New River』（2020年）からの作品を展示します。幻惑的な夜桜や伝統芸能の舞を通じて構成されるこれらの作品は、継承される文化や、自然と人の繋がり、さらにはパンデミックによる孤立や震災の記憶といった、目に見えないエネルギーや精神性までも鮮やかに写し出します。

会期中には、アーティストによるトークやワークショップ、上映会など多彩な関連イベントを開催し、日本の写真表現を起点に日英の新たな文化的対話が生まれる創造的な場を創出します。イベントの詳細については、公式ウェブサイトやSNSで随時お知らせいたします。



From the series *A New River* (2020) © Iwane Ai

「KYOTOGRAPHIE」は、2013年に写真家のルシール・レイボーズと照明家の仲西祐介によって創設されました。歴史的建造物や町家、さらにはモダンな現代建築まで、京都ならではの多彩な空間を会場に国内外の気鋭アーティストの作品を展開します（2026年の開催は4月18日から5月17日まで）。街全体を鮮烈な写真の舞台へと変貌させるその試みは、2025年には国内外から約30万人の来場者を記録するなど、今ではアジアを代表する国際的な文化イベントへと成長を遂げています。本展のディレクションはKYOTOGRAPHIEのレイボーズと仲西、セノグラフィーは小西^{ひろみつ}啓睦が担当します。

「ジャパン・ハウス ロンドンにとって、写真に特化した展覧会の開催は今回が初の試みとなります。私たち誰もが共鳴し得る普遍的な問いを、独自の視座で追い求める二人のアーティストを紹介できることを、大変光栄に思います。本展は、過去から現代に至って幾重にも織りなされた物語に満ちています。それらを見つめ直す時間は、全ての鑑賞者にとって、私たちが共に歩むべき未来について考えるためのまたとない機会となるでしょう。」

——— サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）

【開催概要】

展覧会名：『Kyotographie: Kawada Kikuji x Iwane Ai』

主 催：ジャパン・ハウス ロンドン

企 画：KYOTOGRAPHIE

ジャパン・ハウス ロンドン協賛：Epson UK Ltd、JTI UK

会 期：2026 年 6 月 3 日（水）－ 2026 年 10 月 18 日（日）

会 場：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）

時 間：10:00～20:00（日曜日・祝日は 12:00～18:00）

入館料：無料

本展公式サイト：[こちら](#)

【本展広報用画像】

本展の広報用素材は[こちら](#)ダウンロードいただけます。

以下の QR コードからもアクセスいただけます。



本展の公式展示画像につきましては、準備が整い次第お知らせいたします。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策、取組を発信することにより、幅広い層に対し、親日派・知日派の裾野の一層の拡大をはかることを目的に、外務省により世界の 3 都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに 2018 年 6 月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の 3 フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップ、観光案内コーナーを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[YouTube](#)

【本展に関するお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications チーム

担当：飛騨 香生里（Stakeholder Engagement Manager）

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk